

第2回上越市観光地域づくりワークショップの実施報告

【実施概要】

■日時：令和元年11月13日（水）18時～20時（2時間）

■場所：ミュゼ雪小町 多目的室1・2

■趣旨：観光を取り巻く変化を捉え、策定段階から各主体の皆さんからも「ビジョン」について自由に意見を出し合い、互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深め、参加者同士のつながりを創出してもらうことを狙いとして実施。

■参加人数：22人

- － 観光関係事業者（宿泊、飲食、施設、土産物等）
- － その他事業者（IT、広告等）
- － 観光協会、各種団体（商工、農）、行政、市民 等

■構成

① 自己紹介タイム

② グループワーク① 身近なところから「イチ個人」としてできる観光を考えてみよう

- － 普段の生活の中で観光にどう関わられるか
- － 上越市に来た人に対して何ができるか、来てもらうために何ができるか

③ グループワーク② あなたの立場でできることを考えてみよう

- － あなたの所属している企業、団体、仕事、取組ではどう観光に関わられるか

④ まとめ



- グループワーク①では仕事や立場を抜きにした「イチ個人」として観光にどう関わられるかについて、「上越市へ来てもらうために」「上越市へ来た人に対して」何ができるかなどの観点から、普段の生活の中でできる観光の取組について考えていただき、グループで意見交換を行った。
- ワークでは、情報発信や来訪者との交流、受け入れ環境の整備など幅広い取組が挙げられた。



■ 上越市へ来てもらうためにできる取組

- ・ SNSで発信
- ・ 県外の家族、友人へ上越の魅力を伝える
- ・ 名物、名所の知識を持つ
- ・ 歴史、文化を知る
- ・ 上越市を観光する
- ・ チェーン店以外の地元の飲食店を利用する
- ・ 地域に興味を持つ（知らなければ発信できない）
- ・ 草刈り、清掃
- ・ 自分自身が観光を楽しむ

■ 上越市へ来た人に対してできる取組

- ・ 親切な案内
- ・ 笑顔、挨拶
- ・ 来訪者に声をかける
- ・ 案内する
- ・ コミュニケーションをとる
- ・ 地元の方の家へ連れていく
- ・ おいしいお店を紹介する

■ その他の取組

- ・ マナー、モラルの向上
- ・ 丁寧な運転
- ・ 会話の中で上越の話題を出す
- ・ 学校で地元の話をする
- ・ 次世代に伝える

グループワーク② あなたの立場でできることを考えてみよう

- グループワーク②ではそれぞれの立場、仕事は観光にどう関わられるかについて、それぞれの立場でできる観光の取組を考えていただき、まずはグループ内で話し合った後、グループのメンバーを変えて意見交換した。
- それぞれの立場の中でも情報発信・プロモーション、受入環境整備、来訪者との交流など幅広い取組が挙げられた。

■観光関係事業者

- ・多言語表示や案内板、チラシの作成
- ・問い合わせ等への丁寧な対応
- ・お米の生産現場の紹介
- ・英語で情報発信、外国へPR
- ・旅行会社へ営業(ツアーを造成してもらう)
- ・施設活用に向けて、飲食、体験ができるよう対応
- ・地元の食・施設とのコラボ
- ・所有施設の活用

■観光協会・商工会議所等

- ・他ではやっていないようなのがあった企画の提案
- ・スポーツ、お酒、大食い等の大会の実施
- ・うみがたりを活用したイベントの実施(パーティー等)
- ・資源の掛け算(春日山城×マラソン)
- ・上越ファンを作る
- ・お勧め紹介窓口を設ける
- ・情報発信(ホームページ、SNS)
- ・各団体との連携

■生産者等

- ・商談会参加
- ・上越製品の販売
- ・旅行会社への働きかけ
- ・教育

■行政

- ・環境づくり
- ・若者に地域を知ってもらう機会づくり
- ・視察対応時の上越市PR
- ・SNSによる観光情報の発信
- ・パンフレット作成時に積極的なPR
- ・観光情報提供時にプラスアルファを提供

■その他事業者

- ・お土産の販売
- ・まちと店の歴史を案内
- ・各地域・個店の魅力を発信
- ・市内事業者、情報発信のサイト作成
- ・名物づくり
- ・店舗での観光案内



～参加者からの声～

- ・様々な分野の方の意見を聞いて、知らなかったことや気づかされたことがあり大変参考になった。
- ・普段会うことがない人と交流し、意見をもらうことで刺激を受けた。
- ・自分の取り組みそうなのが客観的に分かった
- ・それぞれの立場でできることを共有し、共感につなげるのは、やや難しいと思った。